

育成センター情報

令和5年1月24日(火)
【倉敷市青少年育成センター】
倉敷市西中新田640番地
TEL 426-3861 / FAX 421-6018

本年も昨年同様 よろしくお願い申し上げます



少年補導委員の皆様をはじめ、関係諸機関の方々におかれましては、旧年中の青少年の健全育成につきまして、ご理解とご協力をいただき深く感謝申し上げますとともに、厚くお礼申し上げます。

さて、今年の干支は「癸(みずのと)卯(う)」です。卯(うさぎ)は、穏やかで温厚な性質であることから、「家内安全」のほか、その跳躍する姿から「飛躍」、「向上」を象徴するものとして親しまれてきました。昨年の壬寅(みずのえとら)が「新しい成長の礎」であったことを考えると、今年の癸卯は「新しいことに挑戦する年」と言えそうです。

今後の補導活動においても、「従来通り」に固執することなく、青少年への深い愛情を基盤とした、新しい「結びつき」を強めていく必要があるのかもしれません。具体的には、思春期や青年期は、心と身体(からだ)のバランスを保ちにくい時期であることから、「子どもはこうあるべき」という固定概念を一度外し、その場面と状況に応じた、大人との適切な関わりを大切にしたい補導活動をより推進していくということです。そのためには、学校や地域の方々、関係諸機関との速やかな連携が欠かせません。

倉敷市青少年育成センターでは、今後とも安全安心なまちづくり、成熟した社会環境の整備に努めてまいります。本年も昨年度同様、よろしくお願い申し上げます。

倉敷市少年補導委員 12月地区研修会

ご参加ありがとうございました

昨年12月、倉敷(6日)、水島(23日)、児島(16日)、玉島(10日)のそれぞれ4地区において、地区研修会を開催しました。

所轄警察署生活安全課からは、昨年の補導状況や、年末から年始にかけて留意すべきことなどを詳しく説明していただきました。各地区で行われた中学校ブロックごとのグループワークでは、情報交換や意見交換が活発に行われ、有意義な研修会となりました。今後の補導活動に生かしていただければと考えています。

また、冬休みに入る12月23日には、午後から各地区の量販店などで、「万引防止」啓発ティッシュの配布を行いながら、「休業中の合同補導」が行われました。多数のご参加、ありがとうございました。



倉敷地区研修会／本庁10階大会議室(R4.12.6)



玉島地区研修会／玉島支所5階大会議室(R4.12.10)

『子どもの成長を見守る ～社会性を育てるために～』

倉敷市少年補導委員 1月研修会

1月14日(土)、ライフパーク倉敷大ホール(倉敷市福田町古新田)において、「倉敷市少年補導委員連絡会1月研修会」を開催しました。ご多用中にもかかわらず、100余名ものご参加をいただきましたことに感謝いたします。

当日は、倉敷市教育委員会指導課“特別支援教育推進室”主任の小野由桂(おのゆか)氏をお招きし、公認心理師・臨床心理士の立場から、「子どもの成長を見守る～社会性を育てるために～」と題して講演していただきました。

お話の中では、ご自身が心理学を学ぶきっかけとなった中学生時代の経験から始まり、エリクソン(1902-1994、米国)が提唱した8つの発達段階説をベースとして、どの立場の方からもわかりやすく、丁寧に説明してくださいました。その結果、子どもとの接し方に迷ったり悩んだりしている大人たちには、今後の行動への“判断の軸”を示していただいたものと考えています。



お知らせ

第45回 倉敷市青少年健全育成推進大会

日時：令和5年2月26日(日)13:30

場所：ライフパーク倉敷大ホール

講師：就実大学人文科学部 非常勤講師

筒井愛知(つついよしとも)氏

演題：『ネット社会の「見えない危険」から、
子供を守る地域の役割 ～地域(見える繋がり)が育む、子供の「心」～』



講演では、子どもの成長の3つの要素(「身体」・「知能」・「社会性」)のうち、「社会性」に焦点が置かれた内容で、親としても補導員の立場としても、多くの“気づき”がありました。

私は今、小学生と中学生の子どもの“子育て真っ最中”ですが、社会性の成長の具合は、他の2つと比べて、目に見えにくいと感じています。親として「何ができるか」と考えてみても、中々思いつきません。それでも、学校という集団生活の中では、学習面だけでなく、日々さまざまな“学び”を経験させていただいていることに気づき、先生方やお友達に改めて感謝しています。

補導業務では、青色防犯パトロール車で担当地区を巡回中、始業時間に遅れて登校する少年に出会うことがあります。その中に、幾度と出会い、私と一緒に話をしながら、学校まで歩いた少年がいます。その少年は、教室で過ごすことができない時間が多く、ほんのわずかな先生や、お友達とだけ関わって過ごしているようでした。ある日、少年の通う教頭先生から、「人との交わりが減ってしまっている児童なので、今日のように関わってもらえることは、彼のためにもなります。」と仰っていただきました。この言葉のもつ意味が、今日の講演によって気づくことができます。

近年は、コロナ禍も相まって、社会性の育ちにくい世の中になっているのかなと感じています。今日のお話を心に留め、振り返りながら、今後の業務においても、少しでも子どもたちの成長のお役に立ちたいと思います。

青少年育成センター
補導員 佐藤真理子

